

第4回福井城址活用検討懇話会

日時：令和3年9月3日（金）14：30～16：25
場所：福井県水産会館 6階 大ホール

1. 挨拶（西村座長）

- ・現在、県都をどうするかという別の会議体（県都にぎわい創生協議会）が動いているので、そことどう調整して役割分担をしていくかが大事である。
- ・中長期的な議論についての方向性を固めていきたい。

2. 議事

議事（1）県都のまちづくりに関する検討状況について

事務局から説明。委員の質疑なし。

議事（2）第3回懇話会での確認依頼事項について

事務局から説明。委員の質疑なし。

議事（3）福井城址活用検討の論点整理について

議事（4）懇話会等における意見・提案に対する考え方について

事務局から一括説明。

○主な意見

- ・散策路を見たが、（そこ以外では）石垣の上に上がれないということに閉塞感を感じた。石垣の上を歩けることにより、まちを見下ろすことができるということが重要ではないか。
- ・井戸や天守台のところは人が入れるようになっているにも関わらず、入ってはいけないと思っていた。入ることができるということを示す案内サインがあるとよい。
- ・洗練された訪れやすい環境づくりをどのようにすればよいのかなと思った時にライトアップなどをして散歩コースにできるとよいと思った。
- ・何万人訪れているとの説明を受けたが、満足度がどうなっているかを知りたい。自分自身は行ってみてちょっとがっかりした。訪れた人が来てよかったと思っているかどうか調査してほしいと思う。
- ・県庁ホールのところはガラス張りになっていて、空間としては開放的だが、入り口は少なく開放的ではない。出来るかどうかは別として、ガラス張りの部分を開放して、テラスをつくり、ガラスの向こう側（北側石垣）部分を整備すれば景観は良くなると思う。
- ・もう少し長期的なことを考えると、建物をどうするかという話になる。これを懇話会で決めるべきなのかは分からないが、分からない場合は後回しになってしまうが、新たに建物を造って後年に負担を残すよりは、そのままにしておいて、市民の方々の機

運や現建物の必要性も考えて取り壊す方が良いのかなと思う。

- 本当のことを言うと復元した方が良いと思っているが、なかなか難しいということであれば何もしない、更地の芝生にしておくということも一つの手だと思っている。
- 城址内を案内してもらって、城址の活用に関して言えば、危険な感じがした。(瓦御門跡の散策路付近の) 生垣が壊れていて、そこからしか内堀が見えないのでそういうところもないといけないのだが、安全性の面で不安を感じた。
- 福の井は、一説では福井の名の由来になったとも言われる有名な井戸であり、近傍に天守台跡の広場もあるので、例えば4月に花見の会でも開いて、福の井の水でお茶を点てて茶会をすとか、そういった斬新な意見も民間から出てくるのではないかな。
- 県庁を壊す、壊さないは中長期的な話になると思うが、建て替えまでの約30年の間に市民の人が活用できるようなコワーキングスペースとか図書スペースにするといったように、半分民間半分行政といった使い方を短期的に試験的に繰り返してやってみると良いと思う。
- 例えば、「TSUGI」や「HUDGE」といったデザイン会社とコラボして、福井駅前の再開発の壁面ラッピングのように、もっと若者に分かりやすく歴史を伝えるものがあると良いと思った。
- 歴史が好きな人の目線で伝えるということが今までのやり方で、その重要性というものももちろんあるが、若者に興味を持ってもらうきっかけとして、知らない人も楽しめるようなコンテンツづくりが非常に大事だと考えている。
- サイトスペシフィックなアートというのは面白いが統一感がなくなる危険性もあるので、適当に公募して作品を置いてしまうというやり方ではなくて、誰かの目線でディレクションしていくということをする必要がある。アートであれば何でも良いというわけではない。
- 提言に関して、短期的なことについては割とまとまりそうな感じだが、将来のところが懇話会としてどこまで出すのかがまだもやもやしている。資料中で将来のところに記載されているものには相容れない、共存し得ないものが結構載っている。やはり建物をどうするかによって動向がかなり変わってくるので、こういう場合はこう目指すとか、いくつかの案を併記してまとめるのかなと思っている。
- 中央公園で金曜日の夜に行われているナイトピクニックはSNSを活用して人を集めており、城址周辺にいる人をどうやって城址内に呼び込むかという点で動線づくりというものがとても大切だと思う。
- 地元の人や若い世代に伝えていくことは大切なことで間違いないが、歴史資源をどう活かすのか、本質的な価値をどう扱うのかというところをもう少し掘り下げる必要がある。もっと包括的で持続的に考えないと議論は進めづらい。
- ライトアップをするというのは直接的には史跡の保存維持するためのものではない。しかし、ライトアップすることによって知ってもらい、広めてもらい、見てもらい、身近に感じてもらうという目的があつての手段でありただの土地活用ではない。
- 歴史資産について絶対に現状維持しなければいけないとか、史実がないものを作る

など考えているわけではなく、史跡を知ってもらい興味を持ってもらうためなら全く関係ない建物を作ってもいいと思う。しかし、誰のために何のために作るのかがとても大事であり、それを作ることによってその歴史資源の本質的価値を伝える手段になるのであればすごく意味のあることだと思う。

- ・そういった意味でも福井の本質的価値は何なのか、城下町である福井市の歴史資源を含めた本質的価値は何なのか、それをどう扱っていくのかというところを議論すべきあり、様々な部署で共有しないと進んでいけないと思う。

(西村座長)

- ・福井城址にはお堀や石垣など他にない重要なものがあるので、それを大事にするためには何をやったらいいのかという議論は、本質的な価値に近い議論ではないか。
- ・一方で、この場所がどう考えられているかということをきちんと共有するような場面があまりなかった。福井城址が今の状態になっているのはどういう歴史の中でそうなったのか、どこが残されているから意味があるといえるのかというところを議論しておくべきだと思った。
- ・天守台のところをうまく含まれていない。お堀の内側で一番景色がよく、外からのアクセスという点では天守台のところを山里口御門を通れば行けるので、例えば中央公園と山里口御門と天守台の部分を一つのものとして活用されることがあれば全体としてもちょっと動きが出そうだと感じた。
- ・長期的なことに関しては対立する意見があり、広場にするのか、博物館、図書館にするのかは一つにまとまらない話である。そのためいくつかの案を併記することになるかもしれないが、それらができるようになるのはだいぶ先なので、その時に福井城址がどんな風になれば県民にとってハッピーなのか、どんなものがあるべきなのかを上手く伝えられれば抽象的な表現でもよいと思う。

議事（５）山里口御門映像装置の改修概要について

事務局から説明。委員の質疑なし。

○まとめ

(事務局)

- ・福井のまちづくり全体の中で福井城址と中央公園の空間がどのような位置づけなのか、観光で福井に来た人が福井の歴史に興味を持ったときに深掘りできる情報提供ができていくかということがある。
- ・現在全体のまちづくりの中で県都にぎわい創生協議会が動いている。協議会ではゾーニングも含めたエリアマネジメントという観点から議論を進めており、その中で県庁周辺はどのような機能が必要か、大きな役割分担の中でこのエリアにはこういう役割であってほしいというところでコンセンサスがあり、県庁の跡地活用があるということはセットだと思う。

- 根本の理念のところについては座長、委員の皆様と個別に議論をしたい。ターゲット層、何を目指しているのか、想定されるものを書き込むということを進めていきたい。
- 今後のスケジュールとしては、本日いただいた意見、指摘を踏まえ、さらに議論をいただいたうえで提言として取りまとめたい。

3. 閉会